

安全上のご注意ください

● 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。

● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをするときと生じることが想定される内容を「警告」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

● 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告

● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電の恐れがあります

● 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります

● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

● 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

● レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります

● 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を引き起こすおそれがあります

● 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります

● 周囲温度が 40℃ 以上になる場合には取り付けないこと
火災・故障の原因になります

● 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

● 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

● 作業は 2 人以上でおこなうこと
レンジフードは約 30kg の重さがあります

● レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

● 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

取り付け上のお願い

● 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
・大工工事【設置のための下地工事等】
・付属工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】

流通業者（販売店）を通じて組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

● ダクトの不燃処理について
・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。

● 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。捕集性能が低下します。

● 屋外壁面の排気出口に取り付けるペントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m²/h 時 50Pa 以下のもをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気能力が低下する場合がありますので使用しないでください。

● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気性能をいじりすぎに低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

● ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：勾配 1/100 ～ 1/50 程度）。雨水の浸入や結露の逆流の原因になります。

● レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。

● レンジフード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取付用座付ねじは 45mm の長さのものが同梱されており、壁・下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座付ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。

● レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。

● 製品仕様を改造してのご使用は絶対にやめください。

● 部屋の中で調理される場合は油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。

● 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

● レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。
レンジフードへの通電が遮断されます。お手入れ時時の表示（お手入れランプ）を正しくお知らせできなくなります。

● 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

● 風量おまかせ運転（風量自動切替）機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

警告

● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電の恐れ、異常動作してけがをするおそれがあります

● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

● 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

● レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります

● 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

● 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

● レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。製品質量 30kg

■ 板張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）
● 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
● 板厚が 20mm 以上の場合には補強板の必要はありません。

■ コンクリート、タイル壁の場合
● あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

注意

■ 土壁の場合
● 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。
※火災予防条例では、グリッドフィルター（ディスク）の下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

4 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

必ずアース工事（D 種設置工事）をしてください。
レンジフードが誤動作することがあります。

各部のなまえ

ダクトカバー

電源プラグ

温度センサー

スイッチ

照明

リモコン・運動信号受信部

オイルガード

整流板

左壁取付タイプ

製品寸法図

（左壁取付タイプ）

（右壁取付タイプ）

運動線詳細図

標準取付例

付属品

座付ねじ（φ 5.1 × 45）10 本
本体、本体取付機およびダクトカバー吊り金具の取り付けに使用します。

化粧ねじ（M4 × 8）2 本
ダクトカバー内側スライド部の固定に使用します。

トラスねじ（M4 × 10）2 本
ダクトカバーの取り付けに使用します。

ソフトテープ 1 本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

排気口 1 個
本体とダクトの接続に使います。逆風防止シャッター付きです。

本体取付機 1 個
本体の取り付けに使用します。

ダクトカバー 1 個
ダクト取付部をカバーします。

ダクトカバー吊り金具 2 個
ダクトカバーの取り付けに使用します。

1. 付属品の確認

注意

● 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一貫により不足がないか確認します。

● 保護用のクッション材と固定テープはキズ、破損防止のため、「8. 固定テープの取りはずし」まではずさないでください。（図 1-1）

● 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

● 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2. 排気方向の決定

警告

● 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

● レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

注意

● 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります

● 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。（ダクトの風漏れ防止のテーピング作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください。）
また、コンセントの位置を確認してください。（「6. 電気配線」図 6-1 参照）
2 φ 150 のステンレスダクト、またはパイラルダクトをレンジフードの上部に突き出すようセットして、周囲を仕上げてください。（コンクリート、タイル、土壁の場合）（図 2-1）
図 2-1 （単位：mm）
■ 上方排気の場合
（左壁取付タイプ）（右壁取付タイプ）
■ 後方排気の場合（別売の L 形ダクトを使用する場合）
（左壁取付タイプ）（右壁取付タイプ）

3. 排気用部品の準備

※ 「1. 付属品の確認」の頁で取り出した排気口を用意してください。
■ 上方排気の場合（図 3-1）
1 排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。
2 製品に付いている取付ねじ 2 本を取り出し、付属品の排気口を差込部に差し込み、取付ねじで取り付けます。
※ 取付方向は右図を参照してください。

図 3-1 （単位：mm）
（左壁取付タイプ）（右壁取付タイプ）

4. 本体の取り付け

注意

● レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

● 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

● レンジフードの前後および左右方向の水平を確実にだしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ（油）が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。

● キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

すきま（挟み込む部材は不燃性のものを使用すること）
キッチンパネル

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。（図 4-1）
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置（左右各 1ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。
2 本体取付機を取り付けます。（図 4-1）
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付機の取付位置に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）2 本で本体取付機を固定します。
図 4-1 （単位：mm）
（左壁取付タイプ）（右壁取付タイプ）
3 本体を引っ掛けます。（図 4-2）
本体のだるま穴用座付ねじに引っ掛けながら（①）、本体背面の溝を本体取付機に引っ掛けます（②）。
● 上方排気の場合はダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
図 4-2 （単位：mm）
（左壁取付タイプ）（右壁取付タイプ）

5. ダクトと排気用部品の接続

お願い

ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように、図のドリリングタッピンねじの使用範囲内に固定してください。（図 5-1）

図 5-1 （単位：mm）
ドリリングタッピンねじの使用範囲（25mm 以下のネジを使用してください。）
45mm 以上
シャッター軸
25mm
15mm 以上
排気口

■ 上方排気の場合
ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 5-2）
図 5-2 （単位：mm）
アルミテープ
ダクト

■ 後方排気の場合（別売の L 形ダクトを使用する場合）
1 排気口を取り付けます。（図 5-3）
本体排気口取付位置に取り付けている取付ねじ 2 本をはずした後、L 形ダクトを本体上部の差込部に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ 2 本で取り付けます。
図 5-3 （単位：mm）
取付ねじ
アルミテープ
差込部
L 形ダクト
（別売品）

2 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 5-3）
図 5-3 （単位：mm）
ダクト
排気口
アルミテープ等
設置面（フード表面等）

■ 排気口設置面の漏風確認のお願い（図 5-4）
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとする、排気口と排気口の設置面（フード表面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図 5-4 （単位：mm）
ダクト
排気口
アルミテープ等
設置面（フード表面等）

6. 電気配線

警告

● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電の恐れ、異常動作してけがをするおそれがあります

● 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります

● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

● アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。
● 電源は専用のコンセント（2 極接地極付差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
● 「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
● コンセントは電源コードの長さを考慮し、右図の斜線範囲内に設置してください（図 6-1）。
● 必ずアース（D 種接地工事）をしてください。機器に異常がない場合でも、アースを接続していないと製品に帯電している電気を感じる場合があります。
● アース線を先に接続してから、コンセントに電源プラグを差し込んでください。

図 6-1 （単位：mm）
（左壁取付タイプ）（右壁取付タイプ）

7. ダクトカバーの取り付け

1 取付位置を確認します。（図 7-1）
製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊り金具の取付位置を確認します。
図 7-1 （単位：mm）
900（最大高さ）
600（最小高さ）
2 ダクトカバー吊り金具を取り付けます。（図 7-2）
ダクトカバー吊り金具を図のように付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）4 本で取り付けます。
※ レンジフードのセンターに合わせて注意しながら取り付けてください。
図 7-2 （単位：mm）
ダクトカバー吊り金具
座付ねじ（φ 5.1 × 45）
本体
3 ダクトカバーを取り付けます。
1) ダクトカバーを扉側まで持っていき、引掛けねじの手前でフード表面に置きます。
スライドさせながら、引掛けねじを切り欠きにはめ込みます。（図 7-3）
図 7-3 （単位：mm）
引掛けねじ
ダクトカバー
切り欠き
2) ダクトカバー前側を付属品のトラスねじ（M4 × 10）2 本で本体に固定します。（図 7-4）
図 7-4 （単位：mm）
トラスねじ（M4 × 10）
3) ダクトカバーの内側スライド部を天井まで引き上げ、付属品の化粧ねじ（M4 × 8）2 本でダクトカバー吊り金具に固定します。（図 7-5）
図 7-5 （単位：mm）
化粧ねじ（M4 × 8）
ダクトカバー（内側スライド部）
化粧ねじ（M4 × 8）

8. 固定テープの取りはずし

付属の取扱説明書を参照し整流板を取りはずし、オイルガードを固定しているテープをはがします。
※ 固定テープをはずした後は、はずした部品をもとどりに取り付けてください。

9. 試運転

注意

● 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

● 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。

● 最終設置した状態で試運転してください。

● 整流板やディスクが正しく取り付けられていることを確認してください。
整流板が正しく取り付けられていないと、運転停止機能により運転ができません。
ディスクを取り付けがなかったり、取り付けが不完全な状態で運転すると、ディスクが忘れお知らせ機能により、付け忘れをお知らせします。
整流板とディスクの取り付けについては取扱説明書をご覧ください。

● 運転時、各運転の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

● 異常な騒音、振動がないことを確認してください。

● 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。

● 取り付けまたは各種工事に発生した不具合が修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

● 製品保護のため、はずした保護用のクッション材をもとの状態に取り付けてください。

● 自動運転機能を保つため、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

10. お客様への説明

● 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。

● 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

【製造元】 -FUJIOH- 富士工業株式会社
本社・営業部 〒 252-0206 相模原市中央区湘野 2 丁目 1 番 9 号
TEL 042(768)3754（営業部）

原寸大型紙（寸法単位は mm）

お願い

この型紙は湿気の影響で 2 ～ 3mm 誤差が生ずることがあります。
寸法をお確かめの上ご使用ください。

※表面は取付説明書になっています。よくお読みになり正しく取り付けをおこなってください。

